

1 学校として目指す授業

○児童一人一人がめあてをもち、話し合いや意見交換を通して、考えを広げたり深めたりする授業。 ○情報を適切に取捨選択し、進んで発信する力を育てる授業。

2 児童の現状

(1) 「全国学力・学習状況調査」の分析 (小学校6年生)

学力・学習状況調査の分析	生活習慣や学習習慣に関する質問紙調査の分析
<ul style="list-style-type: none"> ・国語では、全領域で国の平均を上回っており、特に内容Aの「話すこと・聞くこと」に関する問題の正答率が全国平均との乖離が大きい。 ・算数でも、全領域で国の平均を下回っており、領域B「図形」と領域D「データの活用」が全国平均との乖離が大きい。 ・どちらの教科も「記述式」の問題の正答率が全国平均を大きく下回っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・受験生以外、平日は学校以外ではあまり勉強をしていない。また、土日も勉強していない児童が多い。 ・国語の学習が好きではない児童が、算数に比べて多い。また、英語の学習が好きではない児童も多い。なお、好きではないが、「大切だ」と思ったり、「将来必要だ」と思っている児童は多い。

(2) 東京都「児童・生徒の学力向上を図るための調査」の分析 (小学校4～6年生)

・各教科において学年が上がるほど、学習を「理解している」と感じる児童が増えている傾向にある。高学年になるにしたがって、生活経験が増えたり教科横断的な考え方が定着したりすることから、教科の学習の理解度も上がっていきと考えられる。

・学習の動機として、「しっかりと考えられるようになりたいから」や「将来役に立つから」と考える児童が多く、自己実現のために学んでいきたいという意識は高いことが分かる。

(3) 清瀬市「学力調査」の分析

国語では、校内平均が市平均より1.8ポイント上回っており、目標値も超えている。ただし観点別にみると、知識・技能は、3.2ポイント上回っているが、主体的に取り組む態度は、0.7ポイントしか上回っておらず、目標値に届いていない。算数も同様に主体的に取り組む態度が、他の観点と比べて低い傾向がある。知識・技能定着、表現力を身につけた上で、いかに自分ごととしてとらえ、活用していくかを意識させるように指導していく必要がある。

(3) その他の資料を活用した分析

活用した資料名及び分析結果

東京ベーシック診断シート（算数）①数と計算の領域では、計算の定着について二極化が見られる。②変化と関係領域については、特に単位の換算の定着が低いことから、領域全体の正答率も上がらない様子が確認できる。学習問題に取り組む機会を積み重ねること、定着が難しい児童には、繰り返し学習する時間を設定することを重視した授業計画を構成していく必要が認められる。

3 児童の学力・学習状況等の課題

・自ら課題を設定したり課題を捉えたりすることについて、個人差が大きく、学習や社会の事象を自分事として考える力を身に付けさせる必要がある。

・見通しをもって調べる力を高め、主体的に課題解決を行っていく力を身に付けさせる必要がある。

【授業改善推進プランの活用法】

①「1 学校として目指す授業」を設定する。
※学校経営方針との関連を確認すること。

②「1 学校として目指す授業」に関する各種調査の特徴的な課題を「2 児童の現状」にまとめる。

③「2 児童の現状」を基に、学校全体の課題を焦点化して、「3 児童の学力・学習状況等の課題」にまとめる。

④「3 児童の学力・学習状況等の課題」を基に、「4 学校全体の授業改善の視点」を設定する。

⑤「4 学校全体の授業改善の視点」を基に、「5 各教科における授業改善の方策」を設定する。 → 教育指導課へ提出する。

⑥12月末に実施状況を評価し、3学期以降の指導に生かす。
評価 ○...実施した。 ○...一部実施した。 △...未実施

4 学校全体の授業改善の視点

・授業の中で、生活経験や社会的事象を具体的に想起させながら、自ら課題を設定し調べて解決するという過程を繰り返させることで、解決への見通しを立てながら、より良い方法で調べたい、表現したいと思う児童を増やす。また、「調べること」が自分の学習や生活をより深く、自分の成長につながっていくことを実感させ、さらに新しい疑問を発見したり、そこから新しい考えを構築したりしてできるような授業を展開していく。

5 各教科における授業改善の方策

	国語	評価	社会	評価	算数	評価	理科	評価	生活	評価	音楽	評価	図画工作	評価	家庭	評価	体育	評価	外国語	評価	道徳	評価	
低学年	<ul style="list-style-type: none"> ・読書や音読に取り組み、語彙力を増やすことができるようにする。 ・見たことや経験したことを言葉で文章を書く活動を繰り返し行い、考えたことを書くことができるようにする。 				<ul style="list-style-type: none"> ・基礎基本の学習の徹底を図るために繰り返し練習する時間を確保する。 ・具体物を用いて数の合成や分解の操作を繰り返し行い、思考力を高められるようにする。 ・友達との交流を通して、自分の考えを深められるようにする。 			<ul style="list-style-type: none"> ・身近な人々や自然の関心をもちふれあう機会を設定する。 ・分からないことや知りたいことを、図書資料やICT機器を活用し、調べる学習を繰り返し行うことで、分かる喜びを実感できるようにする。 			<ul style="list-style-type: none"> ・声や身の回りの様々な音に関心をもち、協働して音楽活動に取り組む。 ・曲想を感じ取って表現を工夫し、どのように演奏するか自分の考えをもてるようにする。 			<ul style="list-style-type: none"> ・子供が安全に活動できるように、道具の使い方や用途を理解して使えるようにする。 ・表したいもののイメージを基に、素材や道具を工夫して表すことができるようにする。 			<ul style="list-style-type: none"> ・遊具やマット、ボールなどを活用して多様な動きを体験させながら、基本的な動きを身に付けることができるようにする。 					<ul style="list-style-type: none"> ・教材提示の仕方や発問の吟味することなど工夫をして自分事として捉えることができるようにする。 ・役割演技や具体物等を用いて登場人物の気持ちの発露に気づくことができるようにする。 	
中学年	<ul style="list-style-type: none"> ・様々な言語活動を取り入れ、漢字や言葉が定着できるようにする。 ・文章の構成を意識し、叙述に基づいた読みができるよう学習課題を考えられるようにする。 		<ul style="list-style-type: none"> ・タブレット端末を活用し、児童が資料を目にする機会を増やし、読み取る力を高められるようにする。 ・グラフや表の読み方（表題、縦軸、横軸、全体を見て考えること、比較して考えられることなど）を繰り返し指導する。 		<ul style="list-style-type: none"> ・問題把握の際は、半具体物を提示したり、ICT機器で動画を提示したりして、問題場面のイメージがもてるようにする。 ・自力解決に必要なヒントや習熟を図るための教材を習熟度に応じて準備し、それらを児童が自分で選択できるように学習環境を整える。 		<ul style="list-style-type: none"> ・初めて使う器具や機器の使用方法を教科書の巻末を参考に、安全に取り扱うことができるようにする。 ・問題解決の過程において必ず予想を立ててから実験・観察ができるようにする。 		<ul style="list-style-type: none"> ・学習の振り返りから、次時の課題を自分で見つけられるようにする。 ・曲想と音楽の構造との関わりを気付き、音楽表現を考え、表現に対する思いや意図をもてるようにする。 		<ul style="list-style-type: none"> ・自分の表現したいイメージに合わせて色や形を工夫して表現することができるようにする。 ・自分の表現を大切に作り出すことに喜びを感じられるようにする。 			<ul style="list-style-type: none"> ・体づくり運動やサーキットトレーニングを授業の導入で取り入れることで、基本的な動きや技能を身に付けることができるようにする。 ・技能を高めるための場を多く用意し、自分に合った場を選んで個々の課題に取り組めるようにする。 				<ul style="list-style-type: none"> ・教材文を自分事として捉えことができるように工夫をする。 ・様々な立場の考えに触れ、いろいろな考えがあることに気付くことができるようにする。 					
高学年	<ul style="list-style-type: none"> ・小テストを通して漢字の定着をできるようにする。 ・また、発表する機会を増やし、表現することの抵抗感を減らしていくようにする。 		<ul style="list-style-type: none"> ・自分の生活経験を基に課題を設定し、調べる活動を通じて、社会の様子を理解できるようにする。 		<ul style="list-style-type: none"> ・問題文を整理して図や言葉、式に表して考える時間を意図的に確保し、題意を読み取る力をつける。 ・「データの活用」領域では、複数のグラフや表を提示し、比較して見いだした違いを言葉と数を用いて表現する授業展開を行う。 		<ul style="list-style-type: none"> ・予想を立てる際は、自分の生活経験や既習事項を踏まえて根拠をもつて考えることができるようにする。 		<ul style="list-style-type: none"> ・学習の振り返りから自己の課題を見だし、見直しをもって学習に取り組む。 ・曲想と音楽の構造との関わりを理解し、知識や技能を生かして音楽表現を考え、表現に対する思いや意図をもてるようにする。 		<ul style="list-style-type: none"> ・子供が安全に活動できるように、道具の使い方や用途を理解して使えるようにする。 ・色の組み合わせや濃淡を使い分けて、表したいイメージにあった表現方法を選べるようにする。 		<ul style="list-style-type: none"> ・生活のどのような場面で活用できる技能が想起させ、家族の一員としての役割を担える力を身に付けることができるようにする。 		<ul style="list-style-type: none"> ・学習カードやICTで記録を蓄積して、学習を通して自分の心身の成長を確認できるようにする。 		<ul style="list-style-type: none"> ・単語絵カードや会話文の型を提示することで、視覚と聴覚の両方で理解できるようにする。 		<ul style="list-style-type: none"> ・ペアやグループで話し合う場面を設定し、いろいろな立場から想像する活動を多く取り入れる。 				